

令和5年度 業績評価報告書

令和6年11月

中央労働災害防止協会 参与会議

目次

参与名簿

I 業績評価の実施

- 1 評価の基本的な考え方 1
- 2 令和5年度業績評価の実施 1

II 業績評価の結果

- 1 令和5年度業績評価の結果 9
 - (1) 主な自主事業 9
 - (2) 主な補助事業 9

別紙1 中央労働災害防止協会業績評価シート（自主事業関係）

- 人材育成 10
 - 労働安全衛生マネジメントシステムに対応した研修等の強化・充実 . . . 10
 - 心とからだの健康づくり、メンタルヘルスへの取組の促進 13
 - 化学物質管理の普及・定着に資する体系的な研修の実施 15
 - 「ゼロ災害全員参加運動」の更なる普及拡大 17
 - 法定教育及び指導者育成・資質向上研修の推進 19
- 情報発信 21
 - 全国産業安全衛生大会及び緑十字展の開催 21

別紙2 中央労働災害防止協会業績評価シート（補助事業関係）

- 中小規模事業場安全衛生サポート事業 23

参 与 名 簿

朝日 翼	全国中小企業団体中央会 労働政策部 書記
柏田 達範	全国繊維化学食品流通サービス一般労働組合同盟 労働条件局 部長
清田 素弘	日本商工会議所 産業政策第二部 副部長
坂下 多身	一般社団法人日本経済団体連合会 労働法制本部 統括主幹
椎葉 倫代	日鉄ソリューションズ株式会社 人事本部人事企画部健康管理グループリーダー
嶋野 俊博	日本基幹産業労働組合連合会 中央執行委員
高田 礼子	聖マリアンナ医科大学 予防医学 主任教授
藤間 俊彦	AGC株式会社 環境安全品質本部 環境安全部 パートナー
藤原 美典	日本化学エネルギー産業労働組合連合会 レゾナック労働組合 中央執行委員
○本田 敦子	安西法律事務所 弁護士
三宅 淳巳	横浜国立大学 総合学術高等研究院 上席特別教授
◎山口 直人	公益財団法人労災保険情報センター 理事長
山脇 義光	日本労働組合総連合会 総合政策推進局 労働法制局局長

「◎」 議長 、 「○」 議長代理

I 業績評価の実施

1 評価の基本的な考え方

中央労働災害防止協会(以下「中災防」という。)では、平成14年4月26日に閣議決定された「特別の法律により設立された民間法人の運営に関する指導監督基準」において、「法人の運営に関する重要事項の審議を行う評議員会等において、法人の業務実績の評価が行われていること」とされたことを踏まえ、平成16年度事業から法人外部の者で構成される参与会議において、業務実績の評価を開始した。

評価に当たっては、中災防が実施する主な事業を「主な自主事業」と「主な受託又は補助事業」に二分した上で、1年間ですべてについて業績評価を行うことは困難であることから、その半数程度を対象に業績評価を行うこととし、各事業は2年間で少なくとも1回は業績評価の対象となるよう配慮することとした。

特に、受託事業については、事業の継続性がないものもあることから、継続的に実施することが想定される主な事業を対象とした。

2 令和5年度業績評価の実施

令和5年度事業の業績評価は、別紙の方法により、事務局にて「主な自主事業」と「主な受託又は補助事業」のすべてについて自己評価を行い、その結果に基づいて各参与による業績評価を実施した。次に、令和6年10月10日に令和6年度参与会議を開催し、参与会議としての業績評価について審議した。

令和5年度事業の業績評価については、「主な自主事業」と「主な受託又は補助事業」うち、次の事業を対象とした。

(1) 主な自主事業

イ 人材育成

- (イ) 労働安全衛生マネジメントシステムに対応した研修等の強化・充実
- (ロ) 心とからだの健康づくり、メンタルヘルスへの取組の促進
- (ハ) 化学物質管理の普及・定着に資する体系的な研修の実施
- (ニ) 「ゼロ災害全員参加運動」の更なる普及拡大
- (ホ) 法定教育及び指導者育成・資質向上研修の推進

ロ 情報発信

- (イ) 全国産業安全衛生大会及び緑十字展の開催

(2) 主な受託又は補助事業

イ 中小規模事業場安全衛生サポート事業

令和5年度事業の業績評価の方法について

1 業績評価に至る業務の流れ

業績評価は、

- ①事業報告書の作成
- ②自己評価の実施
- ③各参与による評価
- ④各参与の意見の集約（参与会議）
- ⑤業績評価の取りまとめ
- ⑥業績評価報告書の作成

といった一連の流れで行うこととする。

2 業績評価の基本的事項

(1) 業績評価を行う事業の範囲

以下のイの「主な自主事業」及び以下のロの「主な受託又は補助事業」について評価を行う。「受託又は補助事業」については、継続的に実施することが想定される事業を対象とする。

また、参与の任期が2年であることから、令和5年度事業及び令和6年度事業の2年間で以下のイの「主な自主事業」及び以下のロの「主な受託又は補助事業」について、2年間のうち1回は業績評価を行うこととする。

イ 主な自主事業

(イ) 人材育成

- a IS045001 に対応した研修等の強化・充実
- b 心とからだの健康づくり、メンタルヘルスへの取組の促進
- c 化学物質管理の普及・定着に資する体系的な研修の実施
- d 「ゼロ災害全員参加運動」の更なる普及拡大
- e 法定教育及び指導者育成・資質向上研修の推進

(ロ) 技術サポート

- a 安全衛生診断をはじめとする総合的な技術サービスの強化
- b 労働安全衛生マネジメントシステム認証事業の積極的展開
- c メンタルヘルス・健康保持増進関連事業の推進
- d 第三次産業（小売業、社会福祉施設、飲食店等）事業場及び中小規模事業場に対する取組みの推進
- e 作業環境管理及び化学物質管理への支援

(ハ) 情報発信

- a 全国産業安全衛生大会及び緑十字展の開催
- b 機関誌・図書・用品の拡充・充実
- c 国際協力の推進及び海外進出企業への支援

- ロ 主な受託又は補助事業
 - (イ) 職場における化学物質のリスク評価推進事業
 - (ロ) 中小規模事業場安全衛生サポート事業

(2) 業績評価の方法

- イ 主な自主事業
 - 業績評価は、表1の観点で行うものとする。

(表1：主な自主事業の業績評価の観点)

① 事業計画等で明らかにされた目標の達成状況はどうか。
② 顧客の満足度は高いか。
③ 顧客のニーズを取り入れるなど事業場の取組みに活用できる事業内容になっているか。
④ 広報・営業を含めた集客方法、事業経費等において効率的かつ適切な事業運営を進めているか。

業績評価の評定については、以下の基準を参考に、表2のとおりS、A、B、C、Dの5段階評価で行うこととする。

	S	A	B	C	D
①目標の達成状況	115%以上	100%～ 115%未満	85%～ 100%未満	70%～ 85%未満	70%未満
②顧客の満足度 (最も高い評価の割合)	80%以上	65%～ 80%未満	50%～ 65%未満	35%～ 50%未満	35%未満
③事業内容	非常に 活用できる	活用できる	普通	やや不十分	不十分
④適切な事業運営	非常に 適切である	適切である	普通	やや不十分	不十分

(表2：主な自主事業の業績評価の考え方)

S 表1の観点を総合的に勘案して、非常に良好である。
A 表1の観点を総合的に勘案して、良好である。
B 表1の観点を総合的に勘案して、普通である。
C 表1の観点を総合的に勘案して、やや不十分である。
D 表1の観点を総合的に勘案して、不十分である。

- ロ 主な受託又は補助事業
業績評価は、表3の観点で行うものとする。

(表3：主な受託又は補助事業の業績評価の観点)

① 事業の結果が、国が定めた委託要綱等の内容を満たしているか。
② 利用者（事業場関係者、労働者等）から有用であった等の肯定的な評価を得ているか。
③ 受託事業等の成果が、国における施策の検討・策定や、事業場における安全衛生推進の基盤整備に役立っているか。

業績評価の評定については、以下の基準を参考に、表4のとおりAからCの3段階評価で行うこととする。

	A	B	C
①委託要綱等の内容	満たしている	普通	不十分
②肯定的な評価	得ている	普通	不十分
③基盤整備	役立っている	普通	不十分

(表4：主な受託又は補助事業の業績評価の考え方)

A 表3の観点を総合的に勘案して、良好である。
B 表3の観点を総合的に勘案して、普通である。
C 表3の観点を総合的に勘案して、不十分である。

(3) 業績評価のシート

業績評価に当たっては、「自主事業用」（別添1）及び「受託又は補助事業用」（別添2）それぞれの業績評価シート（以下「評価シート」という。）を使用し、作成することとする。

評価シートに書き込む評価事業の項目は、原則として、評価する年度の事業計画に沿って書き込むこととする。

3 自己評価の実施

自己評価は、上記2の(1)「業績評価を行う事業の範囲」の全ての事業を対象とし、参与会議に先立ち、中災防において検討を行い決定する。

4 参与会議における各参与の意見の集約

上記1の④の参与会議においては、各参与が事前に準備しておいた「事業に対する意見等」及び「評定」をもとに論議を行い、評価を確定することとする。

なお、自己評価が事業内において各個別事業ごとに（ ）で細分化されている場合であっても参与会議における評価は大きくくり1つとする。

5 業績評価報告書の作成

参与会議において確定された業績評価の結果について、外部公表を念頭に業績評価報告書に取りまとめることとする。

6 業績評価報告書の会長報告等

業績評価報告書は、会長に報告することとする。

また、業績評価報告書は、中災防ホームページで公表するとともに、関係者に印刷物で配付することとする。

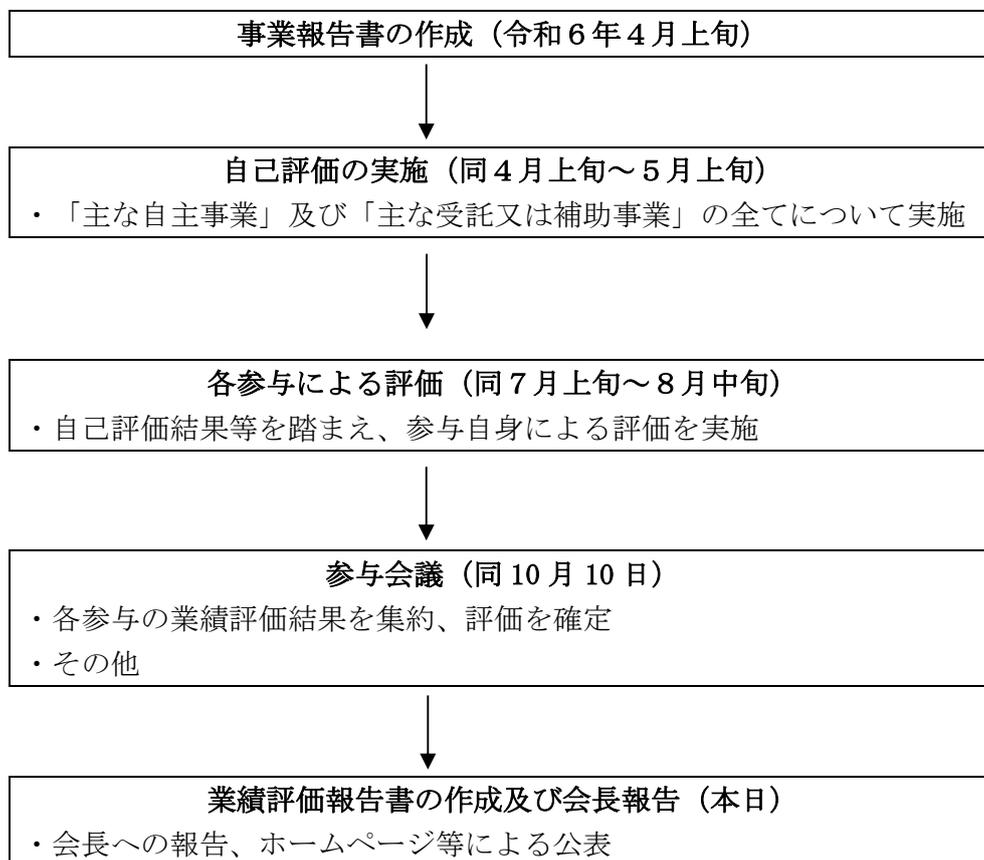
7 その他

- (1) 国においては、社会復帰促進等事業（前労働福祉事業）の効率的・効果的な実施を図るため、平成17年度から事業ごとに「社会復帰促進等事業における成果目標」（以下「成果目標」という。）を設定し、その達成状況を評価することにより、次年度以降の事業の見直し等を行うこととされている。

したがって、社会復帰促進等事業として実施している「主な受託又は補助事業」に係る自己評価に当たっては、表3に示す「事業の結果が、国が定めた委託要綱等の内容を満たしているか」に、当該成果目標の達成状況を考慮することとする。

- (2) 実施した自主事業がどのように事業場で活かされ、実際にどのような効果を与えたのかを把握することは、事業内容の充実、改善等を図る際において大変有用であることから、基本的な取組みとしてフォローアップ調査を推進することとする。

令和5年度業績評価に至る業務の流れ



中央労働災害防止協会業績評価シート（自主事業関係）

注：評価は5段階評価（Sが良い。）による。
（ ）内は項目番号ごとの評価である。

部所名 _____

事業名及び事業計画	業務の実績及び特記事項	自己 評価(注)	参与 評価	理由・特記事項

中央労働災害防止協会業績評価シート（受託又は補助事業関係）

部所名 _____

注：評価は3段階評価（Aが良い。）による。

事業名及び事業計画	業務の実績及び特記事項	自己 評価(注)	参与 評価	理由・特記事項

II 業績評価の結果

1 令和5年度業績評価の結果

(1) 主な自主事業

主な自主事業の業績評価の結果を別紙1（P10～P24）のとおり取りまとめた。
このうち、参与会議における評価は、次のとおりである。

	個々の参与の評価					参与会議としての評価	自己評価
	(S)	(A)	(B)	(C)	(D)		
第1 人材育成						S	S
1 労働安全衛生マネジメントシステムに対応した研修等の強化・充実	8(人)	5(人)	-	-	-	(S)	(S)
2 心とからだの健康づくり、メンタルヘルスへの取組の促進	-	9(人)	4(人)	-	-	(S)	(S)
3 化学物質管理の普及・定着に資する体系的な研修の実施	-	12(人)	1(人)	-	-	(S)	(S)
4 「ゼロ災害全員参加運動」の更なる普及拡大	-	13(人)	-	-	-	(A)	(A)
5 法定教育及び指導者育成・資質向上研修の推進	-	13(人)	-	-	-	(A)	(A)
第3 情報発信							
2 全国産業安全衛生大会及び緑十字展の開催	-	6(人)	6(人)	1(人)	-	(A)	(A)

※ 評価はS、A、B、C、D（Sが良い。）の5段階評価による。

(2) 主な補助事業

主な事業の業績評価の結果を別紙2（P25～P26）のとおり取りまとめた。
このうち、参与会議における評価は、次のとおりである。

	個々の参与の評価			参与会議としての評価	自己評価
	A	B	C		
中小規模事業場安全衛生サポート事業	13(人)	-	-	A	A

※ 評価はA、B、C（Aが良い。）の3段階評価による。

注1：評価は5段階評価（Sが良い。）による。
（ ）内は項目番号ごとの評価である。

注2： は5段階評価のSに相当するレベルにあるもの、
 は同じくDに相当するレベルにあるもの。

事業名及び事業計画	業務の実績及び特記事項	自己評価(注)	参与評価	業務の実績及び特記事項																																																																																													
<p>中災防は令和5年度においては、コロナ禍により影響を受けた需要の回復傾向は前年度に引き続き持続するものと見込んだ。その回復度合いを推測することは難しいことから、令和4年度の事業ごとの実績見込みを基準とし、事業ごとの事情を考慮の上、事業計画を定め、主要事業を実施した。結果は、社会経済活動が回復したことによる需要の回復、建築物石綿含有建材調査者による事前調査、事業場における化学物質の自律的管理のための化学物質管理者等新たな管理体制の義務化への対応など労働安全衛生法改正の施行を迎えることによる需要の増大により、事業ごとの好不調の差は残しつつも、中災防全体では、事業計画を大きく上回るようになった。</p>																																																																																																	
<p>第1 人材育成</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th></th> <th>計画回数</th> <th>計画人数</th> </tr> <tr> <td>全体計</td> <td>1,548回</td> <td>36,982人</td> </tr> </table>		計画回数	計画人数	全体計	1,548回	36,982人	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>目標の達成状況</th> <th>回数</th> <th>人数</th> <th>達成率</th> </tr> <tr> <td>全体計</td> <td>1,723回</td> <td>49,247人</td> <td>133.1%</td> </tr> </table> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>顧客満足度</th> <th>有用</th> <th>まあまあ有用</th> <th>あまり有用でない</th> <th>有用でない</th> </tr> <tr> <td>全体平均</td> <td>71.1%</td> <td>25.6%</td> <td>1.4%</td> <td>0.1%</td> </tr> </table>	目標の達成状況	回数	人数	達成率	全体計	1,723回	49,247人	133.1%	顧客満足度	有用	まあまあ有用	あまり有用でない	有用でない	全体平均	71.1%	25.6%	1.4%	0.1%	S	S																																																																						
	計画回数	計画人数																																																																																															
全体計	1,548回	36,982人																																																																																															
目標の達成状況	回数	人数	達成率																																																																																														
全体計	1,723回	49,247人	133.1%																																																																																														
顧客満足度	有用	まあまあ有用	あまり有用でない	有用でない																																																																																													
全体平均	71.1%	25.6%	1.4%	0.1%																																																																																													
<p>1 労働安全衛生マネジメントシステムに対応した研修等の強化・充実</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th>研修名</th> <th>計画回数(前年)</th> <th>計画人数(前年)</th> </tr> <tr> <td>① ISO45001 規格のポイントと実践研修</td> <td>6(8)回</td> <td>120(160)人</td> </tr> <tr> <td>② 基本から実践まで分かるISO45001研修(2日間)</td> <td>3(5)回</td> <td>45(75)人</td> </tr> <tr> <td>③ ISO45001 内部監査員養成研修</td> <td>22(22)回</td> <td>514(470)人</td> </tr> <tr> <td>④ その他ISO関連研修</td> <td>3(4)回</td> <td>45(60)人</td> </tr> <tr> <td>⑤ リスクアセスメント研修(職場リーダー向け・安全衛生スタッフ向け)</td> <td>109(115)回</td> <td>2,334(2,418)人</td> </tr> <tr> <td>⑥ 機械安全の基礎研修</td> <td>6(5)回</td> <td>120(100)人</td> </tr> <tr> <td>⑦ その他機械設備安全研修</td> <td>34(36)回</td> <td>750(790)人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>183(195)回</td> <td>3,928(4,073)人</td> </tr> </table>	研修名	計画回数(前年)	計画人数(前年)	① ISO45001 規格のポイントと実践研修	6(8)回	120(160)人	② 基本から実践まで分かるISO45001研修(2日間)	3(5)回	45(75)人	③ ISO45001 内部監査員養成研修	22(22)回	514(470)人	④ その他ISO関連研修	3(4)回	45(60)人	⑤ リスクアセスメント研修(職場リーダー向け・安全衛生スタッフ向け)	109(115)回	2,334(2,418)人	⑥ 機械安全の基礎研修	6(5)回	120(100)人	⑦ その他機械設備安全研修	34(36)回	750(790)人	合計	183(195)回	3,928(4,073)人	<p>ア 目標の達成状況 評価：S</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th></th> <th>実績回数(前年)</th> <th>実績人数(前年)</th> <th>達成率(前年)</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td>6(7)回</td> <td>77(57)人</td> <td>64.1(35.6)%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>3(4)回</td> <td>35(37)人</td> <td>77.8(49.3)%</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>28(31)回</td> <td>788(762)人</td> <td>153.3(162.1)%</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>3(4)回</td> <td>48(32)人</td> <td>106.7(53.3)%</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>111(113)回</td> <td>2,625(2186)人</td> <td>112.5(90.4)%</td> </tr> <tr> <td>⑥</td> <td>5(5)回</td> <td>105(70)人</td> <td>87.5(70.0)%</td> </tr> <tr> <td>⑦</td> <td>36(36)回</td> <td>840(706)人</td> <td>112.0(89.4)%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>192(195)回</td> <td>4,518(3,850)人</td> <td>115.0(94.5)%</td> </tr> </table> <p>イ 顧客満足度 評価：A</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <th></th> <th>有用</th> <th>まあまあ有用</th> <th>あまり有用でない</th> <th>有用でない</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td>68.8%</td> <td>29.9%</td> <td>1.2%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>85.7%</td> <td>14.3%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>79.3%</td> <td>19.6%</td> <td>1.3%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>70.2%</td> <td>29.8%</td> <td>0.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>71.4%</td> <td>26.6%</td> <td>1.3%</td> <td>0.0%</td> </tr> </table>		実績回数(前年)	実績人数(前年)	達成率(前年)	①	6(7)回	77(57)人	64.1(35.6)%	②	3(4)回	35(37)人	77.8(49.3)%	③	28(31)回	788(762)人	153.3(162.1)%	④	3(4)回	48(32)人	106.7(53.3)%	⑤	111(113)回	2,625(2186)人	112.5(90.4)%	⑥	5(5)回	105(70)人	87.5(70.0)%	⑦	36(36)回	840(706)人	112.0(89.4)%	合計	192(195)回	4,518(3,850)人	115.0(94.5)%		有用	まあまあ有用	あまり有用でない	有用でない	①	68.8%	29.9%	1.2%	0.0%	②	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%	③	79.3%	19.6%	1.3%	0.0%	④	70.2%	29.8%	0.0%	0.0%	⑤	71.4%	26.6%	1.3%	0.0%	(S)	(S)	<ul style="list-style-type: none"> ・①「ISO45001 規格のポイントと実践研修」と②「基本から実践まで分かるISO45001研修(2日間)」について、研修名からだと同じような内容の研修に思えるが、日数以外に大きな違いはあるのでしょうか。双方ともに受講者がいるため一定のニーズがある一方で、顧客満足度には大きな開きがあります。2つの研修を比較した際の違いが顧客満足度を向上させるヒントになるのでしょうか。 ・①の目標達成率が64.1%とDランクであったが、来年以降に向け改善する項目・方法などの記載があれば前向きな姿勢となり、より納得できる評価につながると思った。 ・目標の達成状況、顧客満足度で高く評価され、今後も顧客との対話を通じて研修会の充実を図っていただきたい。 ・事業内容の改善状況では、顧客ニーズに応じオンライン、対面の構成を見直し対応されており、顧客に合わせた受講しやすい環境になっている。今後もオンライン開催も含め研修等の充実を図っていただきたい。 ・効率(経費削減)について、支出抑制部分で定量的に
研修名	計画回数(前年)	計画人数(前年)																																																																																															
① ISO45001 規格のポイントと実践研修	6(8)回	120(160)人																																																																																															
② 基本から実践まで分かるISO45001研修(2日間)	3(5)回	45(75)人																																																																																															
③ ISO45001 内部監査員養成研修	22(22)回	514(470)人																																																																																															
④ その他ISO関連研修	3(4)回	45(60)人																																																																																															
⑤ リスクアセスメント研修(職場リーダー向け・安全衛生スタッフ向け)	109(115)回	2,334(2,418)人																																																																																															
⑥ 機械安全の基礎研修	6(5)回	120(100)人																																																																																															
⑦ その他機械設備安全研修	34(36)回	750(790)人																																																																																															
合計	183(195)回	3,928(4,073)人																																																																																															
	実績回数(前年)	実績人数(前年)	達成率(前年)																																																																																														
①	6(7)回	77(57)人	64.1(35.6)%																																																																																														
②	3(4)回	35(37)人	77.8(49.3)%																																																																																														
③	28(31)回	788(762)人	153.3(162.1)%																																																																																														
④	3(4)回	48(32)人	106.7(53.3)%																																																																																														
⑤	111(113)回	2,625(2186)人	112.5(90.4)%																																																																																														
⑥	5(5)回	105(70)人	87.5(70.0)%																																																																																														
⑦	36(36)回	840(706)人	112.0(89.4)%																																																																																														
合計	192(195)回	4,518(3,850)人	115.0(94.5)%																																																																																														
	有用	まあまあ有用	あまり有用でない	有用でない																																																																																													
①	68.8%	29.9%	1.2%	0.0%																																																																																													
②	85.7%	14.3%	0.0%	0.0%																																																																																													
③	79.3%	19.6%	1.3%	0.0%																																																																																													
④	70.2%	29.8%	0.0%	0.0%																																																																																													
⑤	71.4%	26.6%	1.3%	0.0%																																																																																													

⑥	75.2%	24.8%	0.0%	0.0%
⑦	64.1%	30.8%	1.9%	0.0%
平均	73.5%	26.5%	0.8%	0.0%

ウ 事業内容（改善状況） 評価：A

- ・「リスクアセスメント Web セミナー」及び「OSHMS Web セミナー」の5研修をいずれも令和3年度からオンラインで開催しており、令和5年度はあわせて年13回（540人）計画のところ、実績は272人だった。令和6年度は顧客ニーズに応じ、内容及びオンラインと対面の構成の見直し・充実を図ることとした。
- ・機械安全に係る令和5年度事業計画においては、入門に続き、既存設備の安全化の研修についてもオンライン開催とし、受講しやすさの向上を図った。
- ・研修内容充実のため、安全管理士が会する場を設け議論し、共通テキストの見直し、改訂を行った。

エ 事業運営（適切・効率性） 評価：A

【適切】

- ・「⑤リスクアセスメント研修（職場リーダー向け・安全衛生スタッフ向け）」では、全国的な展開に対応するため、地区サービスセンターの担当講師の養成及び能力向上に引き続き取り組んだ。
- ・リスクアセスメントがISO45001規格等でOSHMSを実施するに当たって重要な柱となる活動であることや、法令でその実施が規定されていること等を改めてPRし、更なる集客に努めた。

【効率（経費削減）】

- ・研修会の地方開催のニーズに応えるため、都道府県労働基準協会等の協力を得て引き続き実施した。
- ・地方開催の研修会場については、可能な限り地区サービスセンターの会場、講師等を活用して支出を抑制した。
- ・研修案内のDM発送については、他部所と連携を図ることで、より広範な顧客へ周知した。

- 報告ができるにより分かりやすくなったと感じた。
- ・一方で、顧客満足度の「有用」が平均で73.5%にとどまっており、Sに相当するレベルのものが1つである。事業内容の改善や事業運営については評価できるものの、顧客満足度の観点では満足度が低い要因を分析し、満足度向上に向けた取り組みが必要と考える。
 - ・顧客満足度はいずれも高く、評価できる一方、「あまり有効ではない」と評価した受講者の評価理由について精査し、改善に資することが望まれる。
 - ・事業内容（改善状況）に記載されている「リスクアセスメントwebセミナー」及び「OSHMS webセミナー」の5研修に関する計画と実績は、⑤リスクアセスメント研修の計画、実績の内数であるのか不明であるので、記載方法についても今後、検討願いたい。
 - ・各研修の達成率にはばらつきがあり、特に①、②、⑥の達成率は100%を下回っている。実績回数、実績人数を考慮せず、研修項目のみで見ると、3研修/7研修（～43%）が未達成であり、実績人数の多い③、⑤、⑦の研修が全体の達成率の向上に寄与していることを考慮すると、達成状況に基づく評価は「A」が妥当である。今後は実績回数、実績人数ともに顧客の要望や動向を事前に十分把握して計画の策定を行うことが望まれる。
 - ・参加者の増加は評価できるが、昨年の参与会議でも議論した、企業側にマネジメントシステム認証のメリットが参加者にうまく伝わっているかとの議論は改善出来たのだろうか。受講者のアンケート等を取っているのであれば記載内容を確認・分析し、企画側もその意識を持って頂きたい。また、これも昨年の会議で議論したが、マネジメントシステム認証に掛かる経費は明らかにしたのだろうか。他の認証機関と比べてサポート体制を充実させているため、経費が掛かると説明であったが、企業側の反応が高額と感ずるのであれば改善するなど、コスト意識を持って事業を行っていくべきである。
 - ・目標の達成状況は非常に良好、顧客満足度は良好な状況であり、全体として高く評価できる。ただし、研修によっては、「有用である」と回答する割合がやや低めであることから、研修内容の一層の充実を期待する。
 - ・リスクアセスメント研修の全国的展開に対応するための取組も評価できる。研修会場による研修内容のばらつきが生じないよう、引き続き地区サービスセンター担当講師の養成および能力向上に取り組んでいただきたい。
 - ・①ISO45001企画のポイントと実践研修については、全から引き続き7割未満であることから内容精査の上、対応策を検討すべき。

		<ul style="list-style-type: none"> ・各研修の実績を個別に見ると、計画の達成率に大きな差異が存在（①②⑥は90%を下回る一方、③は150%を上回る）。研修の実施に要する人材や予算のリソースが限られることを踏まえれば、達成率の低い研修については、その理由を分析し、受講ニーズの高い研修に統合したり、振り向けることも一案ではないか。 ・機械安全は、製造業等ではリスクアセスメントのベースであることを媒体などで強調し、受講者の増加につなげ、ひいては安全な職場づくりにつなげて頂きたい。 ・ほとんどの研修で目標を上回る実績を達成できている。「ISO45001 規格のポイントと実践研修」については引き続き目標達成への努力を期待したい。 ・受講しやすさという側面のみならず、研修効果という観点に着目し、オンライン開催と対面開催による顧客満足度の違いを踏まえた開催方法の決定を検討してはどうか。 <p>(その他留意すべき点は以下の通り)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働安全衛生マネジメントシステムに対応した研修等の強化・充実として、ほぼすべての研修で昨年度の受講者数を上回り、目標の達成状況の合計の達成率は115%とSに相当する評価であり、また、受講者からの満足度もおおむね高い評価を得ており、Sとした。 ・目標に対し達成率が115%を超えている点は高く評価できる。 ・「目標の達成状況」はSであったが、その他がいずれもAであったため、総合評価をAとした。 ・平均的な顧客満足度は、「有用」「まあまあ有用」を合わせて100%近くにのぼり、各研修が事業場・企業における労働安全衛生マネジメントシステムの導入・実践の参考になっていると考えられる。 ・目標達成率が前年度に比して概ね改善していることは評価できると思います。 ・計画に対し、達成率が低かった研修は、テーマが基本的なもののように思えますが、評価検討されていることを次年度に活かして頂けることを期待します。 ・評価満足度については、オンライン研修は受講のしやすさがある反面、受講者側の受講環境(オンライン画面の大きさ、場所等)により、対面研修に比して顧客満足度が得にくい面があると考えられると評価できると思います。 ・研修講師の人材育成は、全国どこでも標準化された研修を受講できることは大変重要なので、今後も引き続き取り組まれることを期待します。 ・ISO45001の新規認証の増加により内部監査員の養成が急務となっていることから、数年は研修の需要が続
--	--	--

2 心とからだの健康づくり、メンタルヘルスへの取組の促進

研修名	計画回数 (前年)	計画人数 (前年)
① 心とからだの健康づくり指導者のための実務向上研修	31(34)回	1,236(1,352)人
② 心理相談専門研修等	13(12)回	528(445)人
③ 健康づくり推進スタッフ養成研修	4(4)回	156(155)人
④ ハラスメント講座	4(3)回	160(108)人
⑤ 高齢化時代における働く人の健康安全推進セミナー	3(3)回	90(90)人
⑥ 産業医関連研修	36(10)回	1,440(400)人
合計	67(66)回	2,650(2,550)人

ア 目標の達成状況 評価：S

	実績回数 (前年)	実績人数 (前年)	達成率 (前年)
①	33(35)回	1,335(1,378)人	108.0(101.9)%
②	14(13)回	683(574)人	129.4(129.0)%
③	4(4)回	144(140)人	92.3(90.3)%
④	4(3)回	190(74)人	121.8(68.5)%
⑤	3(3)回	71(48)人	78.9(53.3)%
⑥	42(11)回	1,984(500)人	137.8(125.0)%
合計	100(69)回	4,407(2,714)人	166.3(106.4)%

イ 顧客満足度 評価：A

	有用	まあまあ有用	あまり有用でない	有用でない
①	75.3%	23.8%	0.7%	0.2%
②	82.0%	17.1%	0.9%	0.0%
③	84.7%	14.5%	0.8%	0.0%
④	83.2%	15.6%	1.1%	0.0%
⑤	75.4%	23.2%	1.4%	0.0%
⑥	73.3%	25.8%	0.6%	0.3%
平均	79.0%	20.0%	0.9%	0.1%

ウ 事業内容 (改善状況) 評価：A

- ・「①心とからだの健康づくり指導者のための実務向上研修」、「④ハラスメント講座」、「⑥産業医関連研修」は、時宜にかなったテーマを取り上げ、著名な外部講師を活用して、参加者の理解度・満足度の向上に努めた。
- ・「②心理相談専門研修」、「③健康づくり推進スタッフ養成研修」は、昨年度、カリキュラム(内容)と受講対象について大幅な見直しを行い、集客に努めた。
- ・「⑤高齢化時代における働く人の健康安全推進セミナー」については顧客ニーズにあわせ、研修タイトル、カリキュラム(内容)の見直しを行い、集客に努めた結果、計画数未達ではあるが、前年度より集客できた。

エ 事業運営 (適切・効率性) 評価：A

- ・「②心理相談専門研修」は、衛生管理者・看護師の受講資格の実務経験を撤廃するなど受講対象を拡大したことから、受講者拡大を図ることができた。
- ・「④ハラスメント講座」、「⑥産業医のためのレベルアップセミナー」は、過去の受講者への広報PRに努めて、集客を伸ばした。

(S)

(S)

くと見る。一方で基礎的な研修の需要が低下しているのは、一巡したことによると思われる。

- ・昨今これらの研修は自治体や民間でも数多く行われている。中災防でしか企画できないような独自性の強い研修会を開催することで、差別化を進めて頂くことを希望する。
- ・⑤高齢化時代における働く人の健康安全推進セミナーは内容見直しをした上でも未達。ニーズと必要性を再精査すべき。
- ・事業運営に関するアンケート調査(平成6年4月)における「中災防事業の有用度」においては、利用した事業所の回答で、健康づくり関連研修/メンタルヘルスの有用が33.2%、まあまあ有用が45.2%と他の研修に比べて相対的に低くなっている。それに比し受講者の顧客満足度はそれよりも高い。有用性が正しく事業所側に伝わっていない可能性がある。事業所の管理者層に有効性をアピールする方法を検討し、受講者の増加につなげてほしい。
- ・④・⑥の達成率が高い要因について、業績評価シートに具体的な記載が無い。正確な評価ができるように、もう少し取り組んだ内容に関する具体的な情報を提供いただけると有難い。(※例えば、⑥の「産業医のためのレベルアップセミナー」「産業医のためのスキルアップセミナー」「労働衛生講座(産業医認定研修)」は、前年度も実施したのか。開催回数に違いがあるのか。④のオンラインライブ受講は前年度も実施したのか、等々)
- ・目標達成率について④と⑥は大幅に伸びているが、その背景として過去の受講者への広報PRに努めたことが挙がっていますが、参加者はリピーターでしょうか、新規参加者でしょうか。

(その他留意すべき点は以下の通り)

- ・メンタルヘルスの取り組みは、労使ともに安全衛生で重要な取り組みとなるため、より充実した研修・講座を開催し、参加者の理解・満足度向上につなげていただきたい。
- ・達成率が166%超と非常に高く、また顧客満足度もSに相当するレベルのものが半数を占めていることから、自己評価が妥当であると考えます。
- ・「事業内容(改善状況)」によれば、各講座について、テーマやカリキュラムの見直し、外部講師の活用や受講対象の見直し等を行うことで、集客はもとより(達成率が⑤については78.9%であるものの、ほかは90%以上の達成率となっている)、顧客満足度の向上にも繋がったようで、何よりと存じます。

		<ul style="list-style-type: none"> ・ハラスメントについては、近年新たなハラスメント（ソジハラ・カスハラ等）が社会的にも指摘されるようになり、労働者のハラスメントに対する感度が上がるとともに、ハラスメントを契機とするメンタル不調事案も発生していると思われしますので（ただし、業務起因性の有無は別の判断）、心と体の健康づくりメンタルヘルスへの取り組みは、重要性を増していくと考えます。 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い社会活動が再開したことにより、「心とからだの健康づくり」は時宜に適った事業であり、いずれの研修でも達成率、顧客満足度が高く、優れた事業であったと評価できる。 ・②、③については研修内容の見直しを行い、③は達成率は100%には達しなかったものの、その取り組みは評価できるものであり、今後の発展に期待するものである。 ・⑤は社会的要請の高い重要なテーマであることから、令和5年度は目標未達ではあるが、今後、顧客や社会の要請に応えるものとして期待するものである。 ・「ア 目標の達成状況」における実績回数及び実績人数が目標を大きく上回り、かつ「イ 顧客満足度」でも最も高い評価の割合が高く、研修タイトルやカリキュラム等の改善により集客に成功したと思われるためSと評価したい。 ・目標の達成状況、顧客満足度は非常に良好な状況にある研修が多く、高く評価できる。 ・研修では、事業場で関心の高いテーマを取り上げ、内容の見直しや充実を行い、参加者の理解度・満足度を高める取組を積極的に行っていることは高く評価できる。今後も事業場で有効に活用できる研修会を続けていただきたい。 ・「目標の達成状況」はSであったが、その他がいずれもAであったため、総合評価をAとした。 ・全般的に、研修カリキュラムの見直し、受講対象の拡大、研修内容等の見直し、過去受講者への広報といった改善策が必要に応じて実施されており、高い目標達成率や受講者満足につながっている点が評価できる。 ・②心理相談専門研修と④ハラスメント講習、⑥産業医関連研修については、達成率がいずれも120%以上と非常に高い。ニーズが高いことを受け、開催回数や受入れ人数を増やすなど、柔軟に対応したことを評価した。特に②は、衛生管理者・看護師の受講資格の実務経験要件を撤廃した点が、働きやすい職場づくりに携わる人々を広く育成していくという研修の趣旨にも沿っており、評価できる。
--	--	---

3 化学物質管理の普及・定着に資する体系的な研修の実施

研修名	計画回数 (前年)	計画人数 (前年)
① 化学物質管理者専門的講習 化学物質管理者研修（取扱事業場向け）	74(7)回	2,436(224)人
② 保護具着用管理責任者選任時 研修（基本、上級）	7(-)回	260(-)人
③ マスクフィットテスト実施者 養成研修	43(43)回	1,018(1,124)人
④ 化学物質管理関連研修（基本）	7(22)回	170(490)人
合計	131(69)回	3,884(1,838)人

ア 目標の達成状況 **評価：S**

	実績回数（前年）	実績人数（前年）	達成率（前年）
①	131(12)回	8,350(707)人	342.8(315.6)%
②	61(-)回	2,846(-)人	1094.6(-)%
③	49(65)回	1,330(1,780)人	130.6(158.4)%
④	5(22)回	125(490)人	73.5(100.0)%
合計	246(99)回	12,651(2,977)人	325.7(162.1)%

イ 顧客満足度 **評価：A**

	有用	まあまあ 有用	あまり 有用でない	有用で ない
①	64.9%	32.4%	7.5%	0.2%
②	66.7%	31.3%	2.0%	0.0%
③	82.0%	17.2%	0.7%	0.1%
④	58.7%	40.5%	0.8%	0.0%
平均	66.7%	30.9%	2.2%	0.1%

ウ 事業内容（改善状況） **評価：S**

- 令和6年4月よりリスクアセスメント対象物を製造、取扱い、または譲渡提供する事業においては業種・規模に関わらず化学物質管理者を、リスクアセスメントに基づく措置として労働者に保護具を使用させる事業場については、保護具着用管理責任者を選任することが義務づけられたことから、「化学物質管理者専門的講習」、「化学物質管理者研修（取扱事業場向け）」（①）、「保護具着用責任者選任時研修（基本、上級）」（②）をそれぞれ前年度から大幅に回数を増やした計画としたが、それを上回る事業場等からのニーズを受け、さらに増設（177%）して開催し応えた。
- 「マスクフィットテスト実施者養成研修」（③）、基本研修として開催した「管理・監督者のための化学物質管理研修」（④）は、ほぼ計画どおり開催した。
- これらにより、計画比115回の増設開催、受講者数8,767人増加（325.7%）となった。

(S)

(S)

- ⑤は今後ますます高齢者が健康でやりがいをもって働くことが課題になるため、健康管理に加えて、高齢者が働き甲斐を持てる職場づくり等、引き続き顧客ニーズを踏まえた研修の拡充を期待します。
- ④は、特にコロナ以降職場のコミュニケーションの取り方が急激に変化している中、コミュニケーション活性化に悩んでいる事業場も多いので、引き続き顧客ニーズを踏まえた研修の拡充を期待します。
- ほとんどの研修で目標を上回る実績を上げており、満足度も良好である。

- 保護具着用管理責任者選任時研修が計画よりも大幅に受講者が上回っている。この部分は企業内で容易に解決できない内容であることであり今後もニーズがあると予測されるため、次年度以降の充実化を求める。
- 次年度はサービス産業向けの研修を企画しているが、製造業よりも使用する化学物質の種類は大幅に絞られる。その分理論を中心とした職場安全の啓蒙の部分を多くしたわかりやすい研修会にして頂くことを希望する。
- 法改正もあり、ニーズの高い内容に対し、高い達成率となったことを評価。他のテーマで継続的に目標未達となっている講座を見直し、こうした必要性の高い講座を拡充していくことも重要と考える。
- 「①化学物質管理者専門的講習」については、「あまり有用でない」の比率が他と比較し高いように感じる。実績人数が多いことによる影響もあると推測するが、そのような評価を受けた要因を分析し、満足度向上に向けた取り組みが必要と考える。
- 化学物質管理者専門的講習（①）と保護具着用管理責任者選任時研修（②）については、実績回数が計画回数に比べて大きく上回っていますが（①につき約1.77倍、②につき約8.71倍）、この点については「計画時に需要を読むことができていなかった」と分析されています。しかし、化学物質管理者や保護具着用管理責任者の選任がいずれも令和6年4月から義務付けられたものであることからすれば、この計画時の需要の読み違いの原因がどのようなところにあるのかは、検証が必要なのではないかと考えます。（本田）
- ①については、顧客満足度において「あまり有用でない」及び「有用でない」とする評価が7.7%（アンケート回答者を実績人数8,350人とすると642人）もあったことから、その理由について精査し、今後の検討に活かしていく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> 顧客満足度においても保護具着用管理者選任時研修において「有用」の評価が82%となるなど、高い評価結果を得た。 <p>エ 事業運営（適切・効率性） <u>評価：A</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 「化学物質管理者専門的講習」、「化学物質管理者研修（取扱事業場向け）」（①）においては、計画比177%の回数を実施する結果となり、計画時に需要を読むことができていなかった反省点はある。また、受付開始と同時に申込が殺到し、受付ができない状況も発生した。これに対して研修受付システムの改修、回数・定員の大幅増加、講師派遣による事業場での開催への誘導等を行い、8,000人超の受講生に対応した。 2号会員、賛助会員、講師派遣等技術サービスの利用事業場等に対して、研修会の案内パンフレットを配布するなど集客に努めた。 令和6年度においては、サービス産業向けの研修など、顧客ニーズに応える研修を企画、開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> ①は、顧客の要望による研修回数、実績人数の大幅増への対応は高く評価するものの、顧客や社会の要望に関する事前調査が不足していた点は大いに検討を要するものである。今般の化学物質管理に関する法改正は産業界を中心に大きなインパクトがあり、特に中小の事業場ではいまだに対応に苦慮しているところが少なくないため、単に数値目標の達成度だけでなく、受講者の理解度向上や実践に役立つよう、研修の内容、方法について精査の上、丁寧な対応を図ることが望まれる。 ④の基本研修は、他の事業と同様に、基本がテーマだから目標達成率も低いのでしょうか？ 化学物質管理者専門的講習については、他の研修に比べて「あまり有用でない」という回答の割合が多いが、研修会の開催数や定員の無理な増加による影響がなかったかが気になる点である。研修回数の多い研修については、研修の質のばらつきが生じないように取り組んでいただきたい。 化学物質の自律的管理は本格的に開始されて間もない状況であることから、適宜、研修内容の見直しを行い、事業場で化学物質の自律的管理を有効に展開できるような研修を進めていただきたい。 顧客満足度で化学物質管理者専門的講習の有用度が相対的に他の研修よりも低いのは、テキストに課題があるように思う。テキストの分量の多さや難易度の高さから、講習の時間中では理解できない部分が生じ、積み残しが発生している可能性が高い。テキストには、より多くの図表やイラストを用いて、化学物質に詳しくない方でも興味を持ってもらえるような内容を期待する。 <p>（その他留意すべき点は以下の通り）</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標の達成状況や顧客満足度の高さからSという評価をしたい。特に、①「化学物質管理者専門的講習、化学物質管理者研修（取扱事業所向け）」については、急遽開催回数を増やさざるを得ない状況にも対応し、顧客満足度が「有用」と「まあまあ有用」を合わせると97.3%と高かったことを評価したい。 大幅な需要増に対し、問題も解決しながら8,000人超の受講生対応したのは、大いに評価できる。 目標達成状況が非常に高く、また法改正を踏まえた研修内容の見直しについて高く評価できる。 法改正に伴い、実施回数・実績人数とも大幅に伸びたようですが、計画以上のニーズに応えられたことを大いに評価します。
--	---	--	---

4 「ゼロ災害全員参加運動」の更なる普及拡大

研修名	計画回数 (前年)	計画人数 (前年)
① ゼロ災害全員参加運動トップセミナー	1(1)回	40(30)人
② ゼロ災害全員参加運動プログラム研究会(プロ研)	4(4)回	120(92)人
③ 危険予知活動トレーナー研修会	113(106)回	3,834(3,153)人
④ 危険予知訓練1日研修	53(56)回	1,097(1,026)人
⑤ 指差し呼称関係研修会	18(27)回	328(513)人
⑥ 非定常作業の実践KY活動セミナー	2(4)回	60(80)人
合計	191(198)回	5,479(4,894)人

ア 目標の達成状況 評価：A

	実績回数(前年)	実績人数(前年)	達成率(前年)
①	1(1)回	20(32)人	50.0(106.7)%
②	4(4)回	140(113)人	116.7(122.8)%
③	119(122)回	4,180(3,761)人	109.0(119.3)%
④	64(67)回	1,377(1,282)人	125.5(125.0)%
⑤	19(42)回	280(733)人	85.4(142.9)%
⑥	2(4)回	28(65)人	46.7(81.3)%
合計	209(240)回	6,025(5,986)人	110.0(122.3)%

イ 顧客満足度 評価：A

	有用	まあまあ有用	あまり有用でない	有用でない
①	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
②	77.4%	21.0%	1.6%	0.0%
③	77.5%	21.2%	1.1%	0.2%
④	75.8%	22.9%	1.3%	0.0%
⑤	75.4%	23.1%	1.5%	0.0%
⑥	65.8%	26.3%	7.9%	0.0%
平均	78.7%	19.1%	2.1%	0.1%

ウ 事業内容(改善状況) 評価：A

- ・新型コロナウイルスの5類移行に伴い集合型研修の参加申し込みも増加した。②ゼロ災害運動プログラム研究会、③危険予知活動トレーナー研修会などの管理・監督者、安全衛生スタッフ向け講習会は募集開始からすぐに定員に達したため、定員を拡大することで企業のニーズを最大限取り込んだ。また、④危険予知訓練1日研修会については、コロナ禍で教育が滞っていた新規就業者や就業経験の浅い労働者の教育機会のニーズを取り込んだことにより125.5%の実績となった。
- ・①ゼロ災害運動トップセミナーは、達成率が50%と大幅に実績を落とした

(A)

(A)

- ・実践研修は体感により深くリスク回避の重要性を理解できるので非常に大事な研修だと思えます。
- ・目標の達成状況は非常に良好、顧客満足度は良好な状況であり、化学物質管理者専門的講習、保護具着用管理責任者選任時研修については、計画時を大幅に上回る受講希望者数に対し、研修回数・定員増加などにより対応したことは評価できる。
- ・法令の要求に基づく研修の達成率が高いのは、始まって数年という理由もあるが、中災防研修への信頼度のあらわれと見ることもできる。
- ・タイムリーなテーマであり、目標の3倍以上の実績を上げた点は素晴らしい。

- ・ゼロ災害全員参加運動トップセミナーについては、参加者数が計画を大きく下回る結果となったが、顧客満足度は有用と回答した割合が100%となっており、参加者は少ないもののその成果は受講者にとって有用であることが証明されており、引き続き周知に注力してほしい。
- ・「ゼロ災害全員参加運動」関連の受講者の業種は製造業中心だろうか。この概念は業種を問わず必要なため、非製造業でも展開されなくてはならない。しかし、非製造業の方が安全に対する意識が薄いことが現実としてあるため、場合によっては業種を分けてカスタムに開催し、内容も再考して頂くことを検討する。
- ・⑥非定常作業の実践KY活動セミナーについては満足度も踏まえ、見直しが必要。
- ・非定常作業の実践KY活動は、業種・業態によっても作業や危険個所が異なってくるため、顧客のニーズを的確に把握し対応いただきたい。
- ・「①ゼロ災害全員参加運動トップセミナー」の実績人数の少なさについて、要因を分析したうえで、実施時期や次第の見直しも含め、多くの方に参画いただけるよう見直しをお願いしたい(トップ層を対象にするのであれば、1泊2日ではない方が参加しやすいのではないか)。
- ・ゼロ災害全員参加運動トップセミナーについては、達成率は低いものの、顧客満足度が「100%有用」であることから、今後も営業先の開拓により、より多くの参加が見込まれると思えます。
- ・非定常作業の実践KY活動セミナーについては、「あまり有用でない」との顧客が7.9%となっていますが、これは本業績評価シートの中でも特に高い割合と思われるので(多くは、1~2%)、顧客がどのような理由でそう評価したのかが気になります(アンケートには、評価の理由を尋ねる質問はないのでしょうか)。
- ・6項目全体の達成率は110%であるが、①、⑥が大

	<p>が、新規事業場特に中小規模事業場からの参加が 55%を占めた。ゼロ災運動の普及拡大という観点から引き続き中小企業トップへの営業等、トップ層に向けたアプローチを継続していく。⑥非定常作業の実践 KY 活動セミナーについても、達成率が 46.7%と低い実績率となった。集合型、オンライン型と 2 種類の受講形態のいずれも集客にはつながらなかった。非定常作業における災害は多いことから、事業場のニーズに合った内容へ見直し、集客増を図る。</p> <p>エ 事業運営（適切・効率性） <u>評価：A</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・集客については、メールマガジンによる情報発信や中防災月刊誌への掲載及び購読者へのDM発送を行うことで、より広範な顧客へ周知した。 ・研修資料作成にあたり、これまでは執務室内において共用の印刷機で印刷していたが、研修準備室に高速カラー印刷機を導入することにより、大幅な印刷時間の短縮による時間の効率化、研修資料のカラー化による顧客満足度向上につながった。 ・アンケート結果で「有用」及び「まあまあ有用」の合計が 97.8%と高い評価が得られた。 ・リニューアルについて、全国産業安全衛生大会でその方向性は示したものの、具体的な内容の改正には至らず課題を残した。 		<p>幅な目標未達となった理由について精査が必要である。セミナーの内容や方法の他に、開催時期や開催場所などの影響もあるかもしれないので、顧客の要望を調査して今後の検討とすることが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特に、⑥については実績人数は 28 人と少ないものの、顧客アンケートにおいて「あまり有用でない」とする回答が 7.9%あり、この理由について調査し、内容、方法の見直しに活かすことが望まれる。 ・ゼロ災害には、個々の労働者が健康であることが基本のため、健康づくりの視点を付加した内容等、研修の拡充を期待します。 ・危険予知訓練は、体験しないと危険予知の大事さを理解できないので、今後も是非継続実施されることを期待します。 ・①は目標達成度が下がったが、新規事業場特に中小規模事業場からの参加が 55%を占めたのは、良かったという評価でしょうか。中小規模事業場への普及は大事なことなので今後も受講者拡大を図っていただきたいと思えます。 ・非定常作業は現場では重要視されないこともあると思いますが、日頃から備えていないといざというときに対応できないので、研修内容を拡充し継続されることを期待します。 ・非定常作業の研修については、目標の達成率が低く、他の研修に比べて「あまり有用でない」と回答している割合が多いことから、非定常作業の労働災害防止対策の重要性のさらなる周知に加え、事業場のニーズに適合した研修内容に見直すことにより、参加者が増加することを期待する。 ・ゼロ災運動のリニューアルについて具体的内容の改正に至らなかったとのことであるが、次年度は計画的に進めていただきたい。 ・KYT トレーナー研修会は、KY の定着から毎年一定数のトレーナーの育成が必要となる。事業所の期待も大きい。 ・トップセミナーの達成率が低い、大企業では多忙な中での参加は難しい場合が多い。ターゲットを、大企業から中小企業、重厚長大からサービス産業などシフトさせていく必要がある。また、特に重篤災害を起こし特別安全衛生改善計画の対象となった企業については、改善への機会としてトップに受講して頂けるよう、労働局への働き掛けをお勧めしたい。 ・非定常作業の実践 KY 活動セミナーの低調は残念である。多くの災害が非定常作業で発生している状況を考えると、セミナーの存在を広めると共に、オンライン開講での普及を中心に進めるのが良いと考える。 ・「ゼロ災害全員参加運動トップセミナー」は参加目標の達成率は低かったが、参加者の満足度は高く評価されている。引き続き、広報に力を入れてほしい。
--	--	--	---

5 法定教育及び指導者育成・資質向上研修の推進

研修名	計画回数 (前年)	計画人数 (前年)
① 安全衛生トップセミナー	1(2)回	40(70)人
② 危険体感関係セミナー	22(25)回	520(450)人
③ 安全管理者選任時研修	88(89)回	2,359(2,294)人
④ 職長教育(含安全衛生責任者教育・職長能力向上教育)	118(111)回	2,760(2,191)人
⑤ 安全衛生教育センターにおける講座	366(363)回	5,850(4,962)人
合計	595(590)回	11,529(9,967)人

ア 目標の達成状況 評価：A

	実績回数(前年)	実績人数(前年)	達成率(前年)
①	1(2)回	36(70)人	90.0(100.0)%
②	22(26)回	555(540)人	106.7(120.0)%
③	89(95)回	2,461(2,571)人	104.3(112.0)%
④	135(130)回	3,600(3,189)人	130.4(145.5)%
⑤	366(363)回	6,352(6,396)人	108.6(128.9)%
合計	613(616)回	13,004(12,766)人	112.8(128.0)%

イ 顧客満足度 評価：A

	有用	まあまあ有用	あまり有用でない	有用でない
①	68.6%	31.4%	0.0%	0.0%
②	80.5%	18.6%	0.8%	0.2%
③	74.3%	24.8%	0.9%	0.1%
④	70.1%	28.7%	1.1%	0.0%
⑤	77.1%	21.7%	1.2%	0.1%
平均	74.1%	25.0%	0.8%	0.1%

(A)

(A)

- ・①トップセミナーおよび⑥KY活動セミナーについては、目標達成率が50%前後にとどまった。これらについては、改善の方向性についてより具体的な内容を記載されることが望まれる。
- ・「リニューアルについて・・・、具体的な内容の改正に至らず課題を残した」との自己評価が記載されているが、現在の検討状況について伺いたい。

(その他留意すべき点は以下の通り)

- ・全体では目標の達成状況、顧客満足度は高いポイントを得ているが、ゼロ災活動は全員で参加しなければ達成できない取り組みであり、トップの考え方・思いが非常に重要になると考えるため、より充実したセミナーを開催し、理解・満足度向上につなげていただきたい。
- ・目標の達成状況、顧客満足度を踏まえると自己判断は妥当と考える。
- ・目標の達成状況、顧客満足度は全体として良好な状況にあり、ゼロ災運動の普及が必要である中小規模事業場からの参加が増えている研修があることは評価できる。今後も労働災害が多い中小規模事業場や第三次産業への普及拡大に積極的に取り組んでいただきたい。

- ・安全衛生トップセミナーについては「健康経営」をテーマに講師を選定するなど、ニーズを捉えた運営を行ったとあるが、そもそも労働者の安全・健康確保が企業の生産性向上を促すことが前提にあり、そのためには健康経営が求められる。トレンドワードに惑わされず、健康経営と労働安全衛生と関連付けた確固たる理論の構築をお願いしたい。
- ・危険体感関連セミナーは危険を体感できるセミナーであり、中小企業では体感できる設備を持つことができない企業もあるため、人気のあるセミナーと考える。幅広く周知し、効果的な集約に努めていただきたい。
- ・「①安全衛生トップセミナー」の実績人数の少なさについて、要因をしっかりと分析したうえで、実施時期や次第の見直しも含め、多くの方に参画いただけるよう見直しをお願いしたい(トップ層を対象にするのであれば、1泊2日ではない方が参加しやすいのではないか)。
- ・トップセミナーでは健康経営や人材育成の観点をテーマにされていますが、民間でも同様のセミナーが頻繁

	<p>ウ 事業内容（改善状況） 評価：A</p> <ul style="list-style-type: none"> 各研修会については、企業の資格者等安全衛生人材養成のニーズを捉えて計画を上回る実績となった。特に、④職長教育については、令和5年4月1日より食料品製造業、印刷業等の対象業種の拡大という法令改正に伴う需要を捉え計画人数の130%超と大幅増の実績となった。また、①安全衛生トップセミナーについては労働者の健康を経営的な視点から考える企業が増えている中で、「健康経営」や企業の人材育成の観点をテーマに講師を選定し、②危険体感関連セミナーについては体感メニューの入れ替えを行うなどニーズを捉えた運営を行った。 ⑤「安全衛生教育センターにおける講座」は、長期間の宿泊研修であることにより、引き続き確実な新型コロナウイルス感染防止対策の徹底を図ったうえで、法令改正等によるニーズを踏まえた講座を計画し工夫に努めて運営した。企業による指導者養成の需要を捉え計画人数の108.6%の実績となった。 研修会の顧客満足度では、「有用」が74.1%、「まあまあ有用」が25.0%と合計99.1%の受講者が有用であるとの回答を得た <p>エ 事業運営（適切・効率性） 評価：B</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページやメールマガジンを積極的に活用して幅広く周知を図るとともに、賛助会員や過去の受講者に対してDMを行うなどの効果的な広報に努めた。 		<p>に開催されているようなので中災防ならではの工夫があるとよいように思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> 職長教育は、対象業種が拡大されたが、業種ごとに適切な内容でバリエーションを拡大することが望ましい。各業界団体との協働が望まれる。 危険体感セミナーは、VRの活用など最新の技術の導入を図られたい。 <p>（その他留意すべき点は以下の通り）</p> <ul style="list-style-type: none"> 目標の達成状況や顧客満足度等を見る限り、Aという評価が妥当と考える。特に、令和5年度の研修については法令改正に伴うニーズを捉え、目標を大きく超える結果となったという記述からも、引き続き受講者のニーズに沿った講習内容とするよう柔軟に対応してほしい。 ニーズの高い講座を計画より増加開催するなど柔軟に対応している点を評価。 この項目の研修等が参加実績人数として一番多くなっており、顧客満足度の「有用」が99.1%は高く評価できる。今後も顧客ニーズを的確に把握し対応いただきたい。 目標の達成状況、顧客満足度を踏まえると自己判断は妥当と考える。 概ね良好に進捗したと評価できる。 ②の危険体感セミナーにおいて、体感メニューの入れ替えを行うなど、顧客のニーズを捉え、高い顧客満足度が得られたことは評価できる。 ④の職長教育に対する高いニーズが確認できたことは、今後の事業運営計画策定に参考となる情報であり、活用が望まれる。 体感セミナーは、事業場では研修が難しく、ニーズが高いと思いますので、顧客ニーズを捉えて実施されていることは大事だと思います。 目標達成状況、顧客満足度ともに良好な状況であり、企業の安全衛生人材養成のニーズや法令改正に伴う需要に応じて、研修を実施できていることは評価できる。今後も着実に研修を実施していただきたい。 研修内容についても事業場のニーズを踏まえた見直しが行われており、今後も研修内容のさらなる質の向上が図られることを期待する。 法令改正に伴った需要の高さを想定した計画を上回る応募にも応えられたことはとても評価します。 目標達成状況、顧客満足度ともに良好な結果を出している。
--	--	--	--

注1：評価は5段階評価（Sが良い。）による。
 （ ）内は項目番号ごとの評価である。
 注2： は5段階評価のSに相当するレベルにあるもの、
 は同じくDに相当するレベルにあるもの。

事業名及び事業計画	業務の実績及び特記事項	自己評価(注)	参与評価	業務の実績及び特記事項																																			
<p>第3 情報発信</p> <p>1 全国産業安全衛生大会及び緑十字展の開催</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 50%;">名称</th> <th style="width: 50%;">計画数（前年）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 第82回全国産業安全衛生大会（名古屋大会）</td> <td>10,000(10,000)名</td> </tr> <tr> <td>② 緑十字展</td> <td>12,000(12,000)名 720(700)小間</td> </tr> </tbody> </table>	名称	計画数（前年）	① 第82回全国産業安全衛生大会（名古屋大会）	10,000(10,000)名	② 緑十字展	12,000(12,000)名 720(700)小間	<p>ア 目標の達成状況 評価：①A ②S</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>実績数（前年）</th> <th>達成率（前年）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>10,001(7,772)名</td> <td>100.0(77.7)%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>25,562(18,509)名 866(786)小間</td> <td>213.0(154.2)% 120.3(112.2)%</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 顧客満足度 評価：①C ②D</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>満足である</th> <th>まあまあ満足</th> <th>やや不満</th> <th>不満である</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 大会参加者</td> <td>35.4%</td> <td>58.6%</td> <td>5.1%</td> <td>0.9%</td> </tr> <tr> <td>②緑十字展来場者</td> <td>34.0%</td> <td>63.0%</td> <td>3.0%</td> <td>0.0%</td> </tr> <tr> <td>②緑十字展出展者</td> <td>27.0%</td> <td>66.0%</td> <td>6.0%</td> <td>1.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>ウ 事業内容（改善状況） 評価：①B ②A</p> <p>①全国産業安全衛生大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国産業安全衛生大会（名古屋開催、以下「大会」）については、分科会においてDXの進展、化学物質の自律的管理など時宜にあったテーマの発表・講演を多数企画した。また中災防が提唱しているゼロ災害全員参加運動50周年を踏まえ、今後の職場での新たな課題、ニーズに対応した理念等の再構築など新たなゼロ災害全員参加運動の普及のための情報発信を総合集会および分科会で行った。 ・リスクアセスメントの普及のため愛知労働局が進める「安全経営あいち」、労働基準協会によるパワハラ防止の「労働劇」を織り込み、開催地の取り組みを全国に向け発信した。 ・これらプログラムの充実がコロナ明けの情報収集を求める事業場のニーズに合致して参加者の増加につながるとともに、満足度・有用度の維持向上に一定の効果を与えたものと考えられ、大会を事業場の活動に今後活かせるかについてのアンケートの回答は37.8%(対前年比95%)、総合集会については約49.5%(対前年比約125%)となった。 ・満足度に係る要因としては、名古屋駅と会場間の移動手段（公共交通機関）が限られ、増便対応、分散退場の対応を行ったものの混雑が生じたこと、施設内・近隣に飲食店が少なく、事前告知や弁当販売を行ったものの昼食時休憩場所が混雑したこと等が考えられる。今後の大会運営に際しては、こうした点をできる限り改善する。 <p>②緑十字展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安全衛生保護具体験道場」、フォークリフト災害防止をテーマとした特別企画展「防ごう！フォークリフト災害」など、時代のニーズや法改正等 		実績数（前年）	達成率（前年）	①	10,001(7,772)名	100.0(77.7)%	②	25,562(18,509)名 866(786)小間	213.0(154.2)% 120.3(112.2)%		満足である	まあまあ満足	やや不満	不満である	① 大会参加者	35.4%	58.6%	5.1%	0.9%	②緑十字展来場者	34.0%	63.0%	3.0%	0.0%	②緑十字展出展者	27.0%	66.0%	6.0%	1.0%	(A)	(A)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国産業安全衛生大会の現場に伺ったが、メンタルヘルス等の労働衛生に関する講演に人気が集まったように感じた。今後は労働衛生に関する企画を増やしていくことも検討頂きたい。 ・不満・やや不満と回答された点に関し、検討された改善点を次回に着実に活かすことを期待。 ・全国産業安全衛生大会、緑十字展のプログラム内容はアンケート内容を見ると問題ないが、課題として挙げた会場への移動手段、休憩場所（飲食店含む）など、顧客満足度に直結する内容であるため、可能な限り参加者視点の対応をいただきたい。 ・全国産業安全衛生大会の実績数が10,000名を超えたことは高く評価できると考える。一方で、顧客満足度の低さは大きな課題である。要因分析と対策をお願いしたい。また、全国産業安全衛生大会はオンライン限定プログラムのみ視聴ができない点は改善の余地があるように考える。時代や参加者のニーズを捉えた開催方法を検討頂きたい。 ・「事業内容（改善状況）」をみるに、全国産業安全衛生大会、緑十字展ともに、顧客満足度結果の背景事情として、会場の問題（前者につき、移動手段の問題や昼食時休憩場所の混雑、後者につき昼食の販売に関する問題）が大きいように思われ、内容面には問題がなかった（むしろ、参加者アンケートでは、いずれも高い割合で有用との意見が寄せられている。）と思われる。会場に関する問題は、なかなか改善は難しいとは思いますが、今後も顧客のニーズに合わせた会場選択に努めて頂ければと存じます。 ・ゼロ災運動50周年の節目であり、また、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の大会として、①、②ともに盛況であったが、顧客満足度は低い評価となっている。大会の内容よりも、移動手段や昼食時の混雑など、大会運営上の課題が指摘されており、今後の検討が必要である。 ・パワハラ防止の「労働劇」は、参加者にパワハラ防止が伝わりやすい企画ではなかったかと評価します。 ・参加者の意見で、デモンストレーションや昼食の意見
名称	計画数（前年）																																						
① 第82回全国産業安全衛生大会（名古屋大会）	10,000(10,000)名																																						
② 緑十字展	12,000(12,000)名 720(700)小間																																						
	実績数（前年）	達成率（前年）																																					
①	10,001(7,772)名	100.0(77.7)%																																					
②	25,562(18,509)名 866(786)小間	213.0(154.2)% 120.3(112.2)%																																					
	満足である	まあまあ満足	やや不満	不満である																																			
① 大会参加者	35.4%	58.6%	5.1%	0.9%																																			
②緑十字展来場者	34.0%	63.0%	3.0%	0.0%																																			
②緑十字展出展者	27.0%	66.0%	6.0%	1.0%																																			

	<p>に即し、来場者の関心が高い様々な特別企画を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・愛知労働局の「安全経営あいち」の出展ブース、フォークリフト災害防止の特別企画は大会とも連動した企画としており、参加者の誘引を図るとともに有用な情報提供の機会とした。 ・参加者アンケートの結果、97%の参加者が「本展示会の出展商品・機器・情報等は自社の安全衛生対策に有用」と回答。 ・満足度に関連して、来場者・出展者からの要望事項として「デモンストレーションがより多いと良い」「昼食の移動販売や弁当販売の拡大を希望する」等の声があったことから、今後の検討材料としたい。 <p>エ 事業運営（適切・効率性） <u>評価：①B ②A</u></p> <p>①全国産業安全衛生大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大規模会場を確保し総合集会、分科会および緑十字展を1箇所に集約して開催した。1施設を分割して大会と緑十字展を隣接で開催することにより参加者の移動の利便性を高め、多くの大会参加者を緑十字展に誘導する方策とした。 ・総合集会終了後、会場を当日中に2会場に転換して翌日以降分科会場として使用するなど、効率的な会場利用で支出を抑制する運用を行った。 ・受付システムについて前回大会で専門業者に運用を委託したところ、受付処理の仕組みの煩雑さが課題であったことから、旅行受付システムを自社内に持つ業者に委託し、より簡便なシステムを構築させ、受付処理の効率性を高めた。併せて、大会の都度、受付システムを構築する従来からの方法の非効率性を改め、平年利用するシステムへの切り替えの検討に着手した。 ・大会参加者確保については、その大部分を全国の都道府県労働基準協会（連合会）による参加勧奨に依存しているが、昨今基準協会（連合会）の会員数の減少等により従来までと同様の協力を依頼することが難しくなっている。大会を持続的に開催していくため、今後はさらに開催地の特色を活かした参加者の関心の高い企画を進めていくとともに、適正な収支予算の作成、業務委託範囲の見直しなどにより外部委託業者への業務を増やし基準協会（連合会）の負担を削減するなど、大会会場の設営・運営をこれまで以上に合理的に実施していく必要がある。 <p>②緑十字展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・併催する全国産業安全衛生大会と近接会場で開催することにより、効果的・一体的に運営を行った。またこれにより参加者の利便性が高まると同時に、出展者に対しては出展への誘因ともなった。 ・新聞広告、ダイレクトメール、駅貼りポスター等による来場促進を行い、これらの結果、出展小間数は過去最も多い866小間（対前年比110.1%）となった。 		<p>は、今後の開催に際しては、是非踏まえていただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・満足度に係る要因分析が重要であり、今後もよりよい企画を進めていただきたい。 ・一部関連したテーマの講演・発表の時間が重複している場面が見られた。分科会分けの段階で配慮があると良い。 ・目標の達成状況は良好であったが、顧客満足度は改善の余地がある。 ・緑十字展の出展者の満足度が低い状況にある。事業の特性上、来場者の評価が低くなることはやむを得ないと考えるが、出展者の満足度が低い状況が続けば、事業継続性に影響を与えかねず、対策の深堀が求められる。 <p>（その他留意すべき点は以下の通り）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況、顧客満足度を踏まえると自己判断は妥当と考える。 ・目標の達成状況や事業内容（改善状況）、事業運営（適切・効率性）を見れば、満足度が低い状況だとしてもAという自己評価は妥当であると考え。満足度については、これまでの分科会等で検討してきた内容の発表の場と考えると満足度が伸びづらい傾向があると考えられ、満足度が低いとはいえ1年に1度このような全国的に情報発信をする場を設けるといことは非常に意義があると考え。これからも来場者の維持・拡大をしていくためには、満足度の向上等が必要と考えられるため、展示内容や企画内容の改良に努めてほしい。 ・DXの推進や化学物質の管理等時宜にあったテーマで多く企画されたことは評価します。 ・事業内容も、安全衛生大会と緑十字展が連動した企画であったことは評価します。 ・目標達成状況は、全国産業安全衛生大会で良好、緑十字展で非常に良好であり、毎年企画のテーマ設定や会場運営で様々な工夫されている成果であり、評価できる。 ・顧客満足度は、「満足である」の割合は高くないが、「まあまあ満足」も加えれば全体の9割を超えており、事業場や参加者の多様性、参加者数を考慮すると、おおむね良好であると考え。 ・会場が1か所に集約されたことは移動時間の節約につながり、その点では評価できる。 ・最大の労働安全衛生展示会としての緑十字展の盛況は、新製品を知ることができる場として貴重である。
--	--	--	---

注：評価は3段階評価（Aが良い。）による。

（ ）内は項目番号ごとの評価である。

事業名及び事業計画	業務の実績及び特記事項	自己評価 ^(注)	参与評価	業務の実績及び特記事項																																																				
<p>中小規模事業場安全衛生サポート事業（補助事業）</p> <table border="1" data-bbox="175 495 848 789"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>計画数（前年）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中小規模事業場安全衛生サポート事業（集団支援）（補助事業）</td> <td>200(200)件</td> </tr> <tr> <td>中小規模事業場安全衛生サポート事業（個別支援）（補助事業）</td> <td>915(915)件</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,115(1,115)回</td> </tr> </tbody> </table>	名称	計画数（前年）	中小規模事業場安全衛生サポート事業（集団支援）（補助事業）	200(200)件	中小規模事業場安全衛生サポート事業（個別支援）（補助事業）	915(915)件	合計	1,115(1,115)回	<p>ア 事業の結果が、国が定めた委託要綱等の内容を満たしているか</p> <table border="1" data-bbox="1026 533 1596 732"> <thead> <tr> <th></th> <th>実績数</th> <th>達成率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>398 (326)件</td> <td>199.0 (163.0)%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>649 (673)件</td> <td>70.9 (73.6)%</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>1,047(999)回</td> <td>93.9(89.6)%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・支援内容については、労働災害増加の要因としてあげられる行動災害（転倒・腰痛）、高年齢労働者への対策が計170回程度テーマとして実施された他、法令改正に伴い化学物資管理やリスクアセスメントについての説明会も全国的に計140回程度開催された。</p> <p>イ 利用者（事業場関係者、労働者等）から有用であった等の肯定的な評価を得ているか</p> <table border="1" data-bbox="1026 1047 1822 1163"> <thead> <tr> <th></th> <th>有用</th> <th>まあまあ有用</th> <th>あまり有用ではない</th> <th>有用でない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①-1</td> <td>65.8%</td> <td>32.4%</td> <td>1.8%</td> <td>0.1%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1026 1201 1822 1316"> <thead> <tr> <th></th> <th>経費、時間、人材</th> <th>建物、設備が他社</th> <th>権限がない</th> <th>内容が実態と違う</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①-2</td> <td>45.5%</td> <td>18.2%</td> <td>13.6%</td> <td>9.1%</td> <td>13.6%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="1026 1354 1822 1470"> <thead> <tr> <th></th> <th>改善に取り組んだ・取り組み中</th> <th>改善に取り組む予定</th> <th>改善を検討中</th> <th>取り組まない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>②</td> <td>61.3%</td> <td>35.9%</td> <td>2.8%</td> <td>0.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>・集団支援におけるアンケート（①-1）で、労働災害防止への有用度を確認したところ、「有用」65.8%、「まあまあ有用」32.4%と合計98.2%の参加者が有用である旨の評価を行っている。</p> <p>・なお、本評価は、令和5年度の実績評価であるが、令和6年度に実施した集団支援のアンケート（①-2）において、本事業が有用でないと答えた者の理由を聞いたところ、「経費、時間、人材の確保が困難」が45.5%、「建物、設備の所有者が他社」が18.2%との回答があり、経営者の安全衛生への関心度合いや下請けで設備等の改善ができない事業形態であることにより集団支援で学んだことが実現できないことが理由で有用でないと答えていた。客層に応じ、トップの理解、工学的対策といった安全衛生の基本的なことが諸事情で困難な事業場における対策についても、集団支援の中で工夫して助言できないか今後検討する。</p>		実績数	達成率	①	398 (326)件	199.0 (163.0)%	②	649 (673)件	70.9 (73.6)%	合計	1,047(999)回	93.9(89.6)%		有用	まあまあ有用	あまり有用ではない	有用でない	①-1	65.8%	32.4%	1.8%	0.1%		経費、時間、人材	建物、設備が他社	権限がない	内容が実態と違う	その他	①-2	45.5%	18.2%	13.6%	9.1%	13.6%		改善に取り組んだ・取り組み中	改善に取り組む予定	改善を検討中	取り組まない	②	61.3%	35.9%	2.8%	0.0%	<p>A</p>	<p>A</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集団支援と個別支援を合算した支援実績数は、目標数をほぼ達成しており、利用者からの支援に対する評価は、前向きなものが多いため、Aという評価が妥当と考えられる。一方で、令和5年度の派遣件数の増加は法令改正に伴う化学物資管理やリスクアセスメントについての集団説明会のニーズがあったためであり、来年度以降も継続的に目標を達成していくためには、個別支援のニーズの開拓が必要であると考え。HPを拝見すると、2016年のものを最後に更新が止まっているが、個別支援を受けて特に効果があった優良事例の横展開を図るのは方策の一つとならないか。 ・弊団体でも多く活用をさせて頂いており、事業に対する異論は全くない。今後は小売業・介護施設などの比較的安全意識の薄い非製造業のサポート充実化をお願いしたい。 ・集団支援から個別支援への移行干渉を強化するなど、より具体的な支援・成果となることを期待。 ・個別支援を受けた利用者のアンケートでは「改善に取り組んだ・取り組み中」は61.3%、「改善に取り組む予定」は35.9%となっている。97%以上が改善策の取り組み、または意思を打ち出していることから、この取り組み領域を強化すれば今後も安全衛生面の改善が進むことが期待できる。今後も積極的な中小支援を期待したい。 ・個別支援は、開催側としては効率がよくない反面、顧客の個別ニーズに応えやすいので、体制を充実していただき、一件でも多く対応していただくことを期待します。 ・中小規模事業場の実情は多様性があることから、各事業者の実情を考慮した個別支援は重要であり、今後も積極的に進められるような体制整備を進めていただきたい。また、引き続き、作業行動に起因する労働災害防止対策の推進が必要な小売業・介護施設等への支援に取り組んでいただきたい。 ・自己評価について、自主事業と同様に項目ごとの評価が記入されている方が分かりやすい。 ・集団支援のアンケートから、中小企業における安全対策費、人的資源投入などが厳しい状況を窺い知れた。そのような企業でも実施できる安全対策の開発・普及など、現実に合わせた支援も重要と考える。折しも、
名称	計画数（前年）																																																							
中小規模事業場安全衛生サポート事業（集団支援）（補助事業）	200(200)件																																																							
中小規模事業場安全衛生サポート事業（個別支援）（補助事業）	915(915)件																																																							
合計	1,115(1,115)回																																																							
	実績数	達成率																																																						
①	398 (326)件	199.0 (163.0)%																																																						
②	649 (673)件	70.9 (73.6)%																																																						
合計	1,047(999)回	93.9(89.6)%																																																						
	有用	まあまあ有用	あまり有用ではない	有用でない																																																				
①-1	65.8%	32.4%	1.8%	0.1%																																																				
	経費、時間、人材	建物、設備が他社	権限がない	内容が実態と違う	その他																																																			
①-2	45.5%	18.2%	13.6%	9.1%	13.6%																																																			
	改善に取り組んだ・取り組み中	改善に取り組む予定	改善を検討中	取り組まない																																																				
②	61.3%	35.9%	2.8%	0.0%																																																				

	<ul style="list-style-type: none"> 個別支援のアンケート結果では、「改善に取り組んだ・取り組み中」が61.3%、「改善に取り組む予定」が35.9%となり、「改善を検討中」を含めると100%の事業場が改善に取り組むこととしていた。この結果は個別の事業場に対する改善アドバイスが一般論的な内容にとどまらず、それぞれの事業場の実情を考慮した的確な内容となっていることを示しており、高く評価できるものと考えている。なお、事業場からいただいたアンケートの内、自由記述の部分も自己評価の根拠とした。 <p><参考としたアンケート自由記述></p> <p>「どのご指摘も改善必要な個所ですので、対応していきます。」</p> <p>「無事故無災害を目標に業務にあたっているが慣れ、習慣により不安全な行動も生じる。定期的に第三者の視点で点検いただき改善していきたい。」</p> <p>「ヘルパーの勉強会（業務連絡会）でKY研修を計画したいと思います。職場の環境の維持とさらなる改善を行っていききたい。」</p> <p>「過去の労災事故事例をデータ化し、時間、場所、属性等を分析し、事故を未然に防ぐ仕組みの構築に取り組みたい。」</p> <p>「定期的に外部講師をお呼びして安全衛生講習を開き社員従業員の意識レベルを高く保ちたい。」</p> <p>「ノーリフトケアプロジェクトチームを作り、作業マニュアル（リスクアセスメントを含む）に取り組みたい。」</p> <p>ウ 受託事業等の成果が、国における施策の検討・策定や、事業場における安全衛生推進の基盤整備に役立っているか</p> <ul style="list-style-type: none"> 厚生労働省が実施する小売業・介護施設を対象とした+Safe 育成支援や化学物質に関する法令改正などの行政課題に対応して、都道府県労働局、労働基準監督署と連携して、本事業を活用し事業場を指導することにより、事業場における安全衛生推進の基盤整備に貢献した。 	<p>化学物質の対策では個人用保護具の活用も重要視されるようになったことから、指導の中でも二の矢、三の矢として次善策を提案することも有用であろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導した事業所のその後の実施状況のフォローも補助事業の中で実施できると良い。 <p>(その他留意すべき点は以下の通り)</p> <ul style="list-style-type: none"> アンケートの結果にて労働災害防止への有用度が98.2%、個別支援では、それぞれの課題に対して的確にアドバイスを行い、改善につなげていること、また都道府県労働局、労働基準監督署と連携し事業所の安全衛生推進の基盤整備に貢献したことを勘案すると高く評価できる。 実績への達成率、満足度等から自己評価は妥当であると考えます。 参加される事業場が中小規模であり、その事業形態等の事情から、本事業の内容自体の有用性と当該企業にとっての有用性にズレが生じるのは、致し方ないことと存じます。この点については、本評価シートに記載のとおり、「客層に応じ、トップの理解、工学的対策といった安全衛生の基本的なことが諸事情で困難な事業場における対策についても、集団支援の中で工夫して助言できないか今後検討する」姿勢が大切であると考えます。 ②の達成率は70.9%と未達であるが、アンケートに肯定的な評価が得られていることから、総合的判断により「A」評価が妥当である。 ①の目標達成率は199%であり高く評価できる一方、今後は計画策定時の見通しや顧客ニーズの把握を基に計画を策定することが望まれる。また、利用者のアンケートにおいて「内容が実態と違う」との指摘が9.1%もあり、今後、内容に関する検討が必要である。 下請けほど労災のリスクが高くなる印象があることと、自律的に対策を講じることは難しいと思われるので、今後も中災防の役割に大いに期待します。 集団支援については、実績数が計画を上回っており、参加者の評価も「有用」+「まあまあ有用」の割合が98%超と良好であることは評価できる。 個別支援については、実績数は計画を下回っているものの、事業者の実情を考慮した的確な支援を進め、「改善に取り組んだ・取り組み中」の割合が6割に達しており、事業場での取り組みにつながる成果を上げていることは評価できる。 利用者から概ね肯定的な評価が得られている。①-②の情報は今後の取り組みを進めるうえで重要と思われるので、継続してフォローをお願いしたい。
--	---	--